

# 城陽市障がい者自立支援協議会

## 第4回 療育部会報告書

報告者 部会長 障害児(者)地域療育支援センターういる 籠谷 光彦

標記について下記のとおり報告します。

日 時	平成 24 年 7 月 20 日 午前 9 : 30 - 11 : 00
場 所	城陽市福祉センター 第一会議室
出席者	城陽市福祉課 相談支援事業所 (ういる、はーもにい) 障害福祉サービス提供事業所 (あっぷ、あんびしゃ、城陽市社会福祉協議会 チャレンジ、みんななかま )
検討課題	○自閉症の方の食行動のこだわりについての事例検討

### 【議事録】

#### 1. 自己紹介

#### 2. \*ケース検討 偏食、便秘からくる不安定さが見られる方について紹介

【自閉症の方で食行動のこだわり (偏食、過食、拒食等) により日常生活や将来の生活に影響を与えている利用者が多くいる。事業所では現状対応としてはどのように行っているのか? 本人の障がい特性の周囲の理解 などの課題について議論。】

意見として…

#### 偏食に対する取り組み

- \* 事業所のプログラムで、偏食の児童に対する取り組みがある。自閉症児のこだわりへの支援として行っており、徐々に食べられるものを増やしていくようにしている。支援者との良好な関係性も取り組みを行う上では大事になる。
- \* 言葉と感情が一致しているとは限らない場合がある。例えば「脂っこいものが嫌いだ」と言いながら脂っこいものを普通に食べている方もいる。反対の言葉を言うてしまうことがある事を認識し、発する言葉に対して本当にそうなのかという認識をもたないと分からないことがある。
- \* 食事指導をしているデイサービスもある。咀嚼・嚥下の機能が低い自閉症の子供には、口の動かし方を経験させていく必要がある。例えば飴を噛まずに最後まで口の中に入れて舐めきらせる等。食事改善や栄養指導の為、期間限定で入所施設を利用できればいいと感じる。
- \* 栄養士の意見を取り入れる事もできる。食事内容から栄養面の状態を把握する事が可能。課題としては、自閉症のこだわり行動に対して、は栄養士からの助言が難しい点。

#### 本人の障害特性周囲の理解について

- \* 周囲の理解というところで、保護者の理解、事業所の理解などある。保護者が本人に依存してしまっている場合、周りの事業所がサポートに入っている状況（支援の内容等）を保護者が見て、本人を客観的に捉える事も重要。ゆくゆくは親が先に亡くなるので、その時にどれだけ本人ができる事を増やしてあげられるかに向けて一緒に考えていくべき。
- \* 障がい特性について客観的に考える事を距離の近い保護者に求める事は、支援者側も時間をかけて根気良くサポートしていく。例えば偏食の場合、食の楽しみは徐々に分かっていくもの。根気良く支援していく中で、大変な事の中にも面白い事があることを本人も保護者も経験してもらう事が重要。
- \* 事業所の立場では、失敗する事により保護者との関係性が崩れてしまうのでは、と不安がある。しかし、支援する側が保護者に対して失敗する事に構えてしまうと、何もできなくなる。保護者に対して、失敗も含めてやってみる事から、できたときに共に喜ぶ事が必要である。